

授業科目名	老年看護学概論(2300214)		
時間割名	老年看護学概論(14204)		
時間割担当	吉村雅世		
実施期	後期	単位数	2 必修
曜日・時限	月・4		

授業の目標・概要

高齢者の健康を守る看護の必要性和役割を理解し、老年期にある人への看護の方法を理解することを目的とする。そのため、まず、超高齢社会の現状や加齢による心身の変化の特徴から老年期を理解する。次に、ライフサイクルの最終段階にある老年期にある人の固有性と生活への影響を全人的に捉え、昭和を生きた高齢者の健やかな生活と老年期にある人々のQOLの向上を科学的・客観的に目指す看護に必要な理論を学ぶ。

学習の到達目標

1. 老年看護学の必要性和意義について理解できる。
2. 老年期にある対象者の特徴を理解し、そのQOLについて考察できる。
3. 老年看護の目標と役割を理解できる。
4. 高齢者の保健・医療・福祉の動向や対策について理解できる。

授業方法・形式

講義と演習

授業計画

- 第1回 老いるということ 老いを生きるということ
- 第2回 高齢社会と社会保障 高齢社会の統計的輪郭（住まい 経済状態 社会参加 セクシャリティ）
- 第3回 高齢社会と社会保障 高齢社会における保健医療福祉の動向 高齢社会における権利擁護
- 第4回 老年看護の理念 老年看護の成り立ち 老年看護の目指すもの 高齢者にとっての健康 高齢者とQOL
- 第5回 身体の加齢変化とアセスメント1 外皮系 感覚器系 視覚・聴覚
- 第6回 身体の加齢変化とアセスメント2 循環器系 呼吸器系
- 第7回 身体の加齢変化とアセスメント3 消化器系 内分泌系
- 第8回 身体の加齢変化とアセスメント4 泌尿器系 運動器系
- 第9回 身体の加齢変化とアセスメント5 脳神経系 認知機能の障害 パーキンソン病 うつ、せん妄
- 第10回 コミュニケーションと看護ケア
- 第11回 高齢者によく見られる身体症状とアセスメント 発熱 痛み 痒み・しびれ 脱水 嘔吐等
- 第12回 老年症候群と予防 ヘルスプロモーション 老年看護に関わる諸理論
- 第13回 高齢者のリスクマネジメント
- 第14回 保健医療福祉施設における看護 介護を必要とする高齢者を含む家族への看護
- 第15回 高齢者の理解 グループワーク 昭和を生きた高齢者

成績評価の基準

期末筆記試験 60パーセント
 課題レポート 30パーセント
 平常点（小レポート、グループワーク・発表への取り組み）10パーセント

授業時間外の課題

課題1：課題レポート。

テーマ：高齢者の健康 高齢者の健やかな生活

目的：老年看護の目標となる「高齢者の健康」について、超高齢社会の現実の中で考察できる。

方法：テーマに関して興味ある図書を1冊は読む。

図書の内容を切り口に、高齢者の健康、健やかな生活について論述する。

形式：図書の概要（500字程度）

本文（本文にはタイトルをつける。テーマに対するサブタイトル）

合わせて2000～3000字 ポイント11～12 A4縦 横書き

課題2：グループでテーマに沿って情報を集めまとめる。最後に発表する

テーマ：昭和を生きた高齢者

目的：私たちが知らない、高齢者が生きてきた時代を知り、より高齢者に近づいた視点から健康障害を考える能力を養う。

方法：高齢者（75才以上の後期高齢者）の生きてきた時代の、医療、生活、経済等についての出来事・情報をまとめる。

情報を、まとめ、発表するまでをグループワークとして行う。成果は発表し共通認識をはかる。

各グループと担当するテーマは授業の中で決める。

メッセージ

老年看護学概論は、私たちがいまだ体験していない世代の人々を全人的に学び、老年看護の目的を理解する科目です。人生の先輩である高齢者から謙虚に学び、老年期の身体、心理、社会面と幅広く関心を持ち、加齢による心身の変化をもつ高齢者の健康、医療、看護を考えてほしい。老年期の発達や高齢者に多い徴候などを学ぶ機会としてと興味を持ってほしい。

教材・教科書

テキスト

老年看護学 北川公子他 医学書院

参考書

参考書

1. 堀内ふき ナーシンググラフィカ 老年看護学 高齢者の健康と障害
2. 堀内ふき ナーシンググラフィカ 高齢者看護の実践
3. 内閣府 高齢者白書 平成26年度版
4. 国民衛生の動向2014/2015年版